

新しい支援団体を作ろう！

脱風化プロジェクト

現状：一般論から

9 沿岸市町村の災害廃棄物撤去状況①

・散乱ガレキのうち居住地近傍のものについては、8月末までに警戒区域等を除く全ての市町村で撤去完了。

【11月29日現在】	推計量(A)	撤去済み量(B)	撤去率(B/A)
ガレキ全体	22,653千t	14,837千t	65%
散乱ガレキ 建物解体により発生する ガレキ量を除いたもの	12,769千t	12,082千t	95%



(環境省調べ)
-11-

各月ごとの人数

	3県合計	岩手県	宮城県	福島県
3月	58,800	12,100	26,600	20,100
4月	157,500	34,700	92,600	30,100
5月	171,700	46,000	91,500	34,300
6月	128,700	42,200	64,700	21,800
7月	125,200	46,400	62,700	16,100
8月	97,300	48,200	40,200	8,800
9月	59,400	36,400	19,700	3,300
10月	46,200	25,500	16,900	3,800
11月	34,200	19,900	12,400	1,900

左:東日本大震災復興対策本部 「復旧の現状と復興への取組[12月5日]」
<http://www.reconstruction.go.jp/>

右:全社協 「ボランティア活動者数の推移」(12月18日まで)
<http://www.saigaivc.com/>

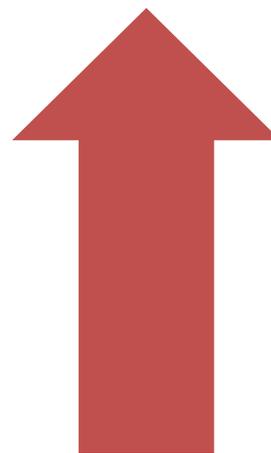
現状：学生ボランティア

登録の学生数は、今約2200名
ですが、実際に現地にいった学
生は250名程度です。関東の学
生が多いのですが、最近は関西
の学生も増えてきました。
(2011年5月27日)

船登惟希 [youth for 3.11代表]

参照：ダイヤモンド社書籍オンライン エディター
ズ・チョイス

<http://diamond.jp/articles/-/12446>



やりたい

+ 希望

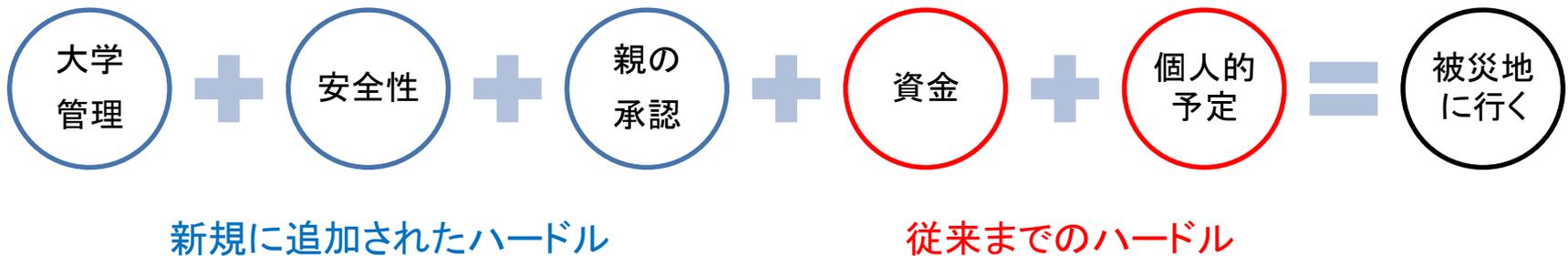


— 現実

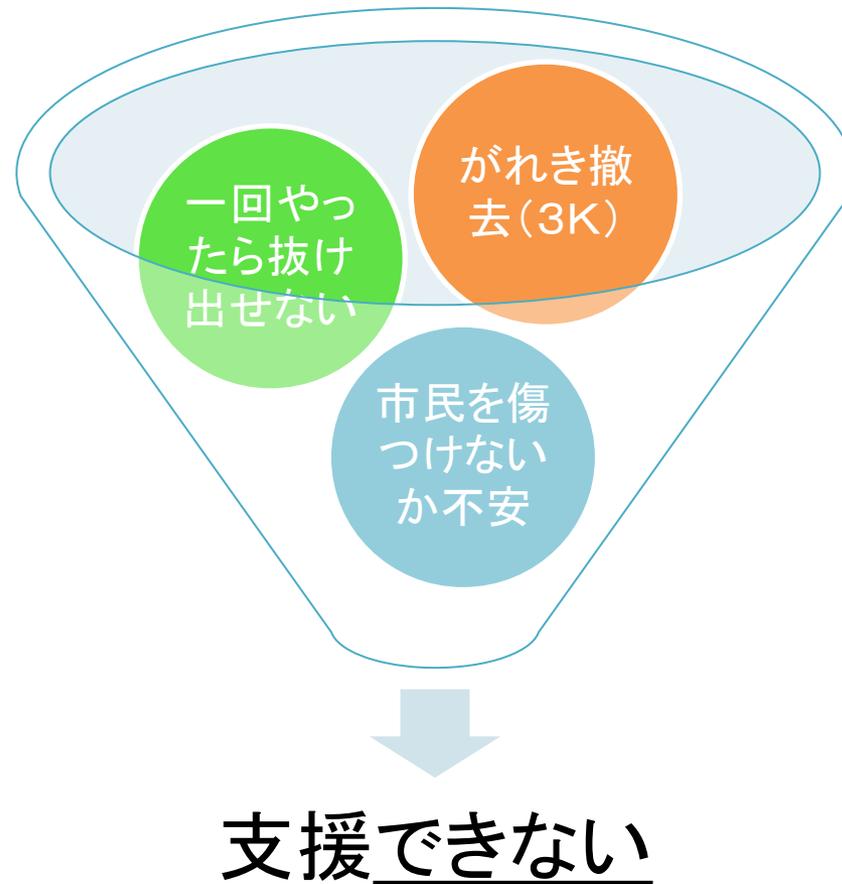
やらない

学生が参加しにくい状況

文部科学省は2011年4月2日に、ボランティア活動のために学校を休学した学生について、補講や追試の実施、レポートによる学修評価を行うなどの特別な配慮をするほか、学生がボランティア保険に入ること、適切な安全管理・健康管理を行い、危険を伴う作業には参加しないなど、ボランティア活動の安全確保について指導するよう各大学・高等専門学校長に通知した。



学生が参加しにくいと思うイメージ





学ボラを阻害する外的な要因

コア・ボランティア

イメージ形成までのコア・ボラ言説

がれき撤去

毎週金土日に行くボランティア
肉体労働としての充実感

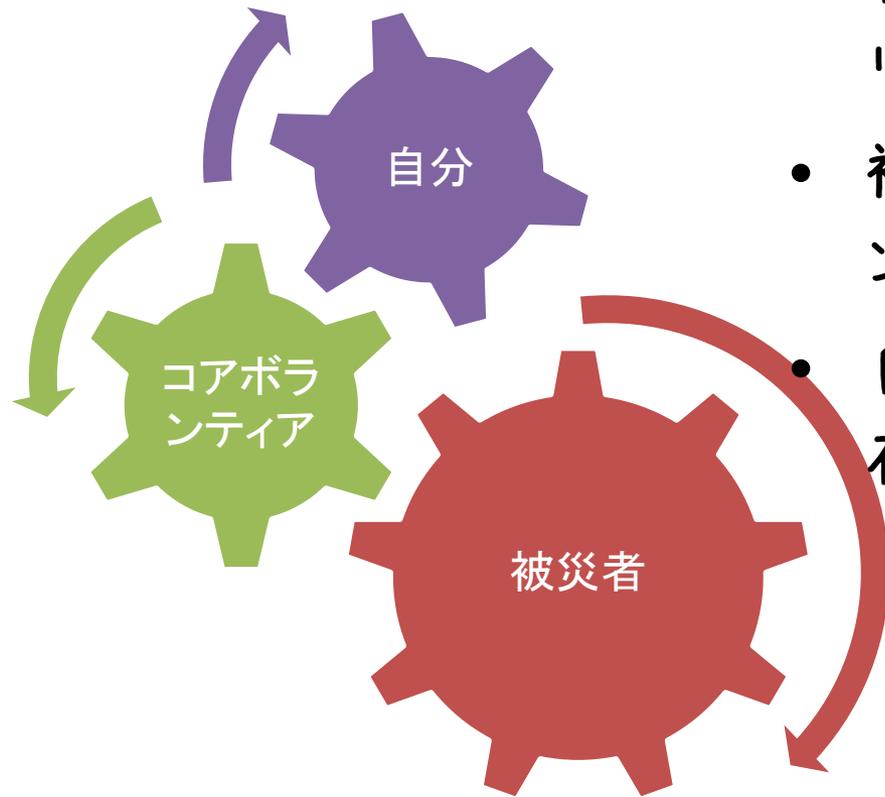
市民感情

自己満足・エゴ幻想
市民感情を傷つけるな

人間性

一生続けなければいけない責任感
単一的思考による集団催眠

コア・ボラの存在



- 自分-被災者が直接的にリンクしていない
- 被災者を代弁するコアボランティア
- 自分の「保護者」として存在。日常的攻撃性。

コア・ボラ幻想

ボラに向く性格とその裏側 ～新版TEGから読み取る～

プラス	理想を追求する 良心に従う ルールを守る スジを通す 義務感、責任感が強い努力家	相手に共感、同情する 世話好き 相手を受け入れる 奉仕精神が豊か 弱いものをかばう
	CP	NP
マイナス	タテマエにこだわる 中途半端を許さない 批判的である 自分の価値観を絶対と思う	過度に保護、鑑賞する 相手の自主性を損なう 相手を甘やかす



コア・ボラによって作られた被災地幻想

学ボラの活動のために

被災者と直接つなぐ

継続性を保証する

非被災地活動を創造する



「ニーズ」の双方向性

被災地のニーズ

学生にしてほしいこと



学生にできそうなこと



支援を受け入れる寛容性

支援者のニーズ

学生だからできること



学生でもできそうなこと



被災地に入る柔軟性

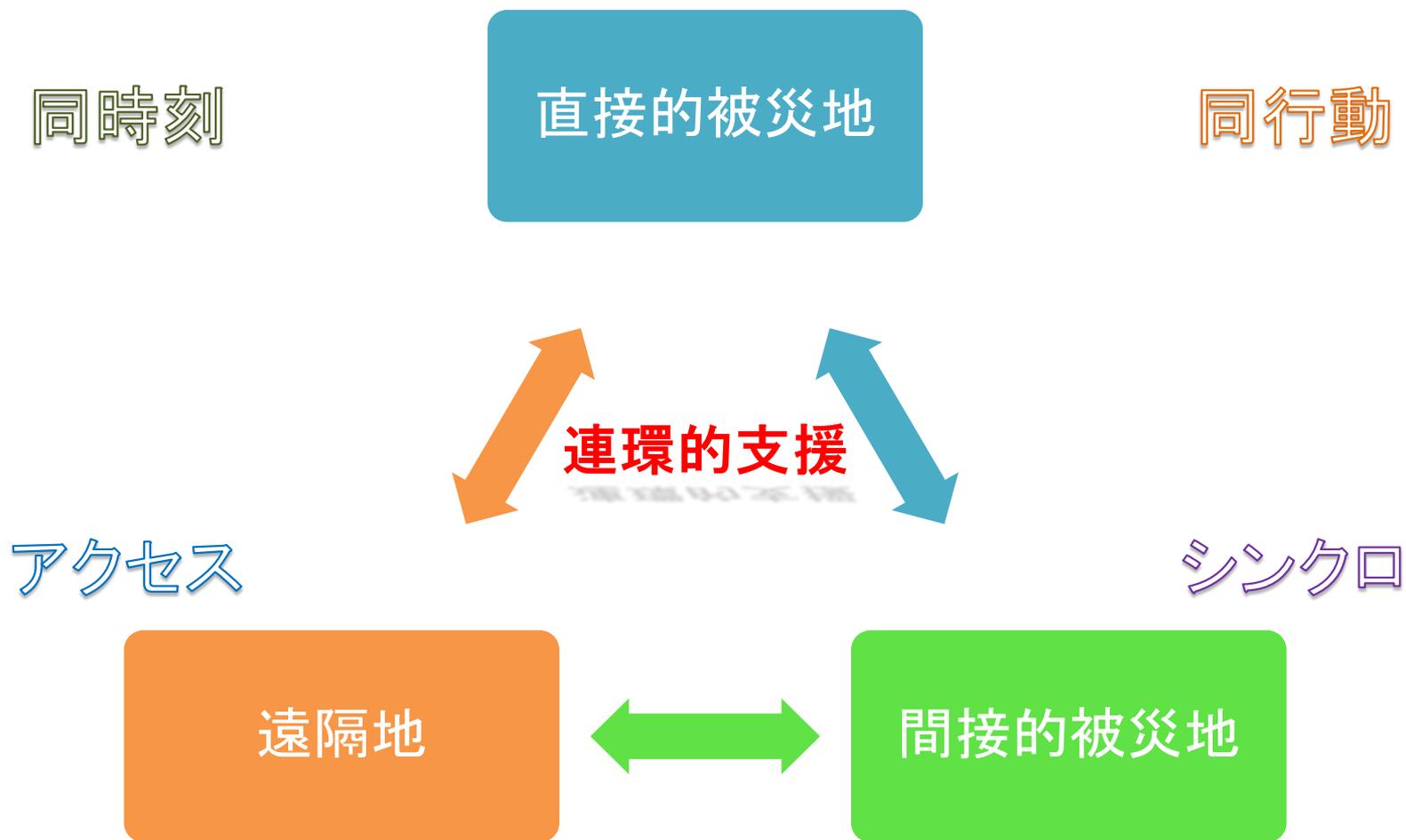
- 支援者と被災者を直接結ぶ
- 学生であることを前提にした支援のカタチを作る
- 同世代同士の支援
- 共存共栄型支援

支援の継続性を補完するために



多角的、多層的、連続する支援の集合体

「非」被災地支援の仕組み



Aid発 学生支援団体新設



Air.のイメージ



- 柔軟性
- 軽妙性
- ソフト支援、柔らかさ
- 流動性、ムーブメント
- 新鮮さ、すがすがしさ
- 透明性
- 拡散性

Air.の周辺



Air.の重点的方向性

スポンサー
の獲得

活動資金の安定化
被災地への交通費の
確保
例: バス50人乗り
1泊3日 30万円

Facebook
twitter #Air_03
mixi

広報

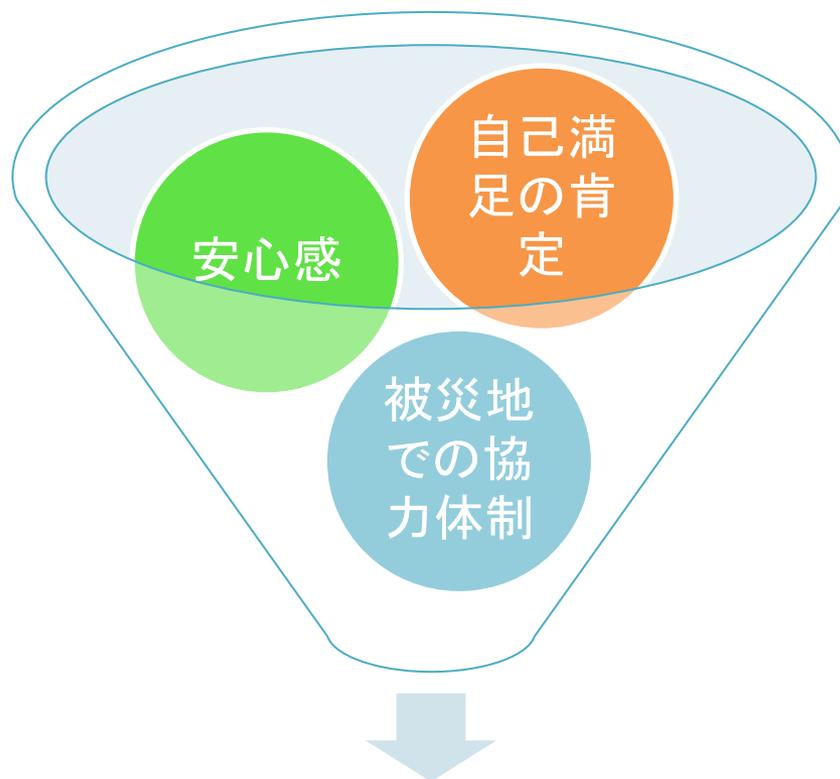
巨大化

目標
2012年3月: 1000人
2012年7月: 10000人

Air.の方向性



学ボラを増やすために



支援したい 

脱風化プロジェクト

このあとは座談会！